

地域の顔

～子どもたちの居場所“児童館”に看護学生が参加すること～

須磨区横尾児童館 館長 田中準三さん

昨年からは、菅の台児童館の館長（平成27年当時※）からの紹介を受け、看護学生が夏季期間に横尾児童館に来てくれています。昨年は2人（本館と若草児童館）、今年は3人の学生を本館ほか、落合、妙法寺児童館でそれぞれパートとして受け入れることになりました。横尾児童館は私が着任した3年前は25人の児童が登録していましたが年々数が増え、今年は47人が登録しています。学年がそれまでの1～3年生のみから、6年生まで受け入れ可能としたことが関係しているからかもしれません。夏休み期間は朝からお弁当を持った大勢の子どもが来館するのでとてもにぎやかになります。この期間に学生さんに来ていただき大変助かっていますし、何より若い学生さんが来てくれることで、子ども達の目の輝きが違うというもあります。

児童館では学年を超えた子ども達が集っており、縦の関係をつくる貴重な場となっています。小学校で教員をしていた当時は「開かれた学校」として、学校が放課後も子ども達の集いの場となることを目指していましたが、子どもを巻き込んだ事件などで環境が大きく変わり、児童館は今、子ども達にとって地域の大切な“居場所”となっています。

看護学生の受け入れはつい最近からですが、ぜひこの機会に児童館に集う多様な性格をもった子ども達の姿をみて、将来の看護に活かしていただければと思います。また子ども達との関わりの中で、例えば夏場の熱中症予防に水分をこまめにとるよう気をつけるなど、ちょっとした健康の視点を持って接してもらえると嬉しく思います。

※平成27年度健康生活支援学実習で、菅の台児童館館長とお話する機会があり、本学学生のパートのお話をいただくようになりました。

（聞き手 地域連携教育・研究センター准教授 相原洋子）

地域づくり・健康づくり

～理学療法士が担う地域の活動紹介～

訪問看護・リハステーションラヴィー 副所長 中村竹男さん

神戸市西区では、2年前より5事業所の理学療法士、社会福祉協議会、あんしんすこやかセンターの協働により、コミュニティサポート育成事業の一環として地域住民による介護予防教室が支援を受けています。

元来、理学療法士は、ケガや病気からの身体機能の回復や症状の悪化予防のために、病院で患者さんを支援する役割でした。しかし、健康寿命の延伸のためには元気な時からのアプローチが重要であること、ある地域住民から「ふれあい喫茶」でお茶のみ会をしており、それなりのつながりはできてきたが、さらに身体によいことをしたい」という相談が、あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）に入ったことがきっかけで、地域において介護予防教室が始まったそうです。現在では、区内で16グループが立ち上がり、自主的に活動されています。中村さんは理学療法士として、効果的で適切な運動に対する助言や健康に関する知識を提供なさっています。参加している地域住民にとってこの教室は、健康づくりの他に情報交換、互いの安否確認の場としても利用されているそうです。また、この教室を始めたことで、理学療法士やあんしんすこやかセンターの認知も高まり、相談件数が増えたことで早期介入がしやすくなってきたという手ごたえも感じておられました。今後は、立ち上がったグループが継続できるための支援が必要であり、そのためにも地域、医療、福祉のネットワークづくりが重要だと爽やかな笑顔で語っておられました。

（聞き手 地域連携教育・研究センター助教 小巻京子）



横尾児童館の館内の様子



体操後のインタビューの様子

中村氏と学生